

□4月20日説教(隅野徹牧師)短縮版「かねて言われていた通り復活された方」(マタイ28:16～20)

18節を見ると「イエス自らが近寄ってこられた」とあります。礼拝はするけれども、まだどこか疑っている、そんな者たちが持つ「微妙な距離感、溝」を復活の主は自ら近寄り埋めて下さるのです。愛と謙りに満ちたお姿を見て取れます。疑っていた弟子たちはどんなに励まされたでしょうか。

次に復活のイエスは「多くの人が自らの弟子になるように招いておられる方である」ということに注目します。これは19節と20節から分かります。

弟子とはイエスの教えを聞き、信じ、主と仰いで歩む人々のことです。すべての民とは「世界のすべての人間」という意味とは少し違います。世界中すべての人を弟子としなければならぬ、という極端な命令ではありません。私達の罪のために十字架にかかり、死をうち破って復活されたイエス・キリストは愛のお方です。あくまで私達が、自分の意思でキリストを救い主と信じ、そのしるしとして洗礼を受け、新しく生きる者になってほしい、と望んでおられるのです。さらに注目したいのが19節の「すべての民」という言葉です。これには「国籍、民族を超え、すべての人を救いたい」というイエス御自身の「愛による願い」が表れていると私は思います。すべての人はキリストの愛による救いに招かれているのです。そこには「人間的な評価の、優劣」はありません。私たちは、神の子イエスが十字架で身代わりに死んでくださるに値しない「小さき者」ですが、特別に救いに招かれていることを改めて覚えましょう。

イエスはこの思いを、弟子たちの故郷である「ガリラヤ」で伝えられました。それは弟子たちが「自分の意思でキリストを救い主と信じ、そのしるしとして洗礼を受け、新しく生きる者となっている」ことを思い出すためでもあるのです。

私達の教会でも、先週の月曜日、保井卓さんが「キリストを救い主と信じ、そのしるしとして洗礼を受け、新しく生きる者となった」その恵みにあずかりました。まさに「イースターに合わせるようにして」復活の主の愛の招きによって、神にあって新しい命が誕生したことを心から感謝します。保井卓さんを愛によって招かれた復活の主は、ここにいる一人ひとりをも「特別な愛をもって招かれていること」を改めて心に刻みましょう。(終)